

13℃

カンショ、サトイモ、ラッカセイ、ワタなどの経済栽培の北限は、年平均気温13℃附近のところであり、茶もほぼ同様である。常緑果樹のミカン、ビワなども生育が可能である。一方、リンゴ、アウトウなどの経済栽培はこれ以北である。13℃の線を境にして品種の生態型の異なる作物は多く、作付も異なる。エゾノキツネアザミ、ハチジョウナの発生、またツユクサ、シロザ、タデ類など広葉雑草の防除に苦労するのも、これ以北である。そのため、13℃の線は農業地域区分の重要な指標としてあげられている。この線は、北関東の山沿いから中部地方の山間盆地をとおり、滋賀県北部から日本海沿岸の山麓に沿い、新潟に達する。もっと概括的にいえば、関東、中部地方と東北地方を分ける線と考えてよい。

筆者も13℃の線に早くから関心をもち、南日本と北日本の自然区分に用いている。近頃はこの線と日本農業さらに日本の発祥と関連させて、いろいろ想像されている。もし日本民族が南から渡来したものであれば、当時の農業技術から13℃以北には進めなかったであろう。神社の起原、来歴などについては素人であるが、最も分社が多い諏訪神社の分布も関東、中部以南である。東北地方の種族がエゾといわれ、開発が遅れた原因も理解できる。日本農業の発祥を考え、原始時代にさかのぼる時、13℃の線のもつ意義を考えないわけにはいかない。それは現時点と対応して、農業技術の進歩を考える上できわめて重要な数値である。

(農林省農事試験場畑作部 中山兼徳)

目次

ミカン類の品質コントロール剤

品質調節剤の必要となる背景……………2

品質調節剤の考えかた……………2

1. 呼吸との関係……………2

2. 果実の肥大との関係……………3

3. 熟期の調節……………4

4. 光合成物の集積との関係……………4

試験方法……………4

第1次選抜……………4

第2次選抜……………4

第3次選抜……………4

実用化試験……………4

選抜試験の成績……………5

農林省園芸試験場興津支場 広瀬和栄

昭和45年度ワラビ防除関係除草剤

試験成績概要……………7

1. アシュラム水溶剤……………9

2. DBN粒剤……………9

3. DCBN粒剤……………9

4. TCBA粒剤……………9

5. スルファミン酸アンモン
+ TCBA……………9

6. ATA+DCMU……………9

7. 2,4PA+ATA……………9

8. スルファミン酸・硫酸複塩……………9

9. MCP60乳剤……………10

10. T-300……………10

11. ブロメトリン+MCPs……………10

農林省草地試験場 嶋村匡俊

新登録除草剤一覧……………10

新登録生育調節剤一覧……………13